

## IV. そ の 他

厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患克服研究事業

門脈血行異常症に関する調査研究（H23-難治-一般-26）

平成23年度第1回班会議

班 長 森 安 史 典

日時：平成23年7月5日（火）14：00～16：10

場所：新宿アイランドタワー 20階 moboff

〒163-1320 東京都新宿区西新宿 6-5-1

厚生労働省難治性疾患克服研究事業  
門脈血行異常症に関する調査研究班

平成 23 年度第 1 回班会議

日時：平成 23 年 7 月 5 日（火） 14：00～16：10

場所：moboff 新宿アイランドタワー20 階

議事スケジュール

- 1) 14:00～14:20 班長あいさつおよび今後の研究の概要  
森安 史典（研究班班長 東京医科大学消化器内科）
- 2) 14:20～14:40 平成 23 年度からの疫学調査について  
廣田 良夫（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学）
- 3) 14:40～15:00 検体保存センターの研究推進について  
橋爪 誠（九州大学大学院医学研究院先端医療医学）
- 4) 15:00～16:00 研究分担者個別研究  
各研究分担者 3 分（研究組織情報表のお名前順）
- 5) 16:00～16：. 10 事務局からの連絡事項  
古市 好宏（班会議事務局長 東京医科大学消化器内科）

## 研究組織情報

①研究者名		②分担する研究項目	③所属研究機関及び現在の専門(研究実施場所)	④所属研究機関における職名
1	森安 史典	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 門脈血行異常症の血行動態に関する検討</li> <li>・ 肝内微小循環の血流パラメータの解析による病態の解明</li> <li>・ 難治性腹水の病態解明と治療法の確立</li> </ul>	東京医科大学 内科学第四講座	教授
2	橋爪 誠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 門脈血行異常症における門脈循環制御に関する検討</li> <li>・ 全国検体保存センター及び登録制度の推進</li> </ul>	九州大学大学院 医学研究院 先端医療医学	教授
3	川崎 誠治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 左葉グラフトを用いた成人生体肝移植における門脈血流調節の必要性に関する研究</li> </ul>	順天堂大学 医学部肝胆膵外科	教授
4	北野 正剛	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 門脈血行異常症の治療指針の改定</li> </ul>	大分大学 医学部 総合外科学 第一講座	教授
5	前原 喜彦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IPH に対する脾摘の長期成績、長期予後の検討</li> <li>・ 脾摘後門脈血栓症に対する予防治療法の確立</li> </ul>	九州大学大学院 医学研究院 消化器・総合外科	教授

6	馬場 俊之	・ IPH における免疫応答の制御に関する研究	昭和大学医学部 消化器内科学	講 師
7	塩見 進	・ IPH における遺伝子に関する研究	大阪市立大学大学 院 医学研究科 核医学	教 授
8	小嶋 哲人	・ 門脈血行異常症における血液凝固異常に関する研究	名古屋大学医学部 保健学科検査技術 科学専攻	教 授
9	國吉 幸男	・ BCS の治療法に関する研究	琉球大学医学部生 体制御医科学講座 機能制御外科学分 野	教 授
10	廣田 良夫	・ 全国疫学調査 ・ 定点モニタリングシステムの構築と実施	大阪市立大学大学 院 医学研究科 公衆衛生学	教 授
11	中沼 安二	・ 門脈血行異常症の病理学的研究	金沢大学 医薬保健研究域医 学系形態機能病理 学	教 授
12	鹿毛 政義	・ 門脈血行異常症の病理学的研究	久留米大学医学部 病理学教室	教 授

13	松谷 正一	・ 門脈血行異常症の血行動態に関する検討	千葉県立保健医療 大学健康科学部 看護学科	教授
14	江口 晋	・ 本邦における BCS に対する生体肝移植の現況、適応	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究 科 移植・消化器外科	准教授
15	吉田 寛	・ 門脈血行異常症の治療に関する研究	日本医科大学 多摩永山病院 外科	准教授
16	福井 博	・ 門脈血行異常症の病態解明に関する研究	奈良県立医科大学 医学部第三内科 消化器病学・ 肝臓病学	教授
17	小原 勝敏	・ 門脈血行異常症の治療と予後に関する研究	福島県立医科大学 附属病院 内視鏡診療部	教授
18	坂井田 功	・ 門脈血行異常症の肝再生治療に関する研究 ・ 門脈血行異常症の IVR 治療と心機能・血管内皮機能に関する研究	山口大学大学院 医学研究科 消化器病態内科学	教授
19	國分 茂博	・ 門脈血行異常症の IVR 治療に関する研究	順天堂大学医学部 附属練馬病院 消化器内科	先任准教授

厚生労働省難治性疾患克服研究事業  
門脈血行異常症に関する調査研究班  
平成 23 年度研究概要

代表研究者

東京医科大学内科学第 4 講座

森安 史典

1. 厚生労働省科学研究費難治性疾患克服研究事業（資料 1）

2. 評価について（資料 2）

3. 広報（資料 3）

難病情報センター <http://www.nanbyou.or.jp>

難病情報センター情報企画委員

特発性門脈圧亢進症

東京医科大学 森安 史典

肝外門脈閉塞症

千葉県立保健医療大学 松谷 正一

バッド・キアリ症候群

九州大学大学院医学研究院 橋爪 誠

4. 平成 23 年度～25 年度の研究計画（資料 4）

① 疫学研究

② 検体保存センターの活用

③ 診療ガイドライン

④ 各班員の独自研究

5. 研究費使途について（資料 5）

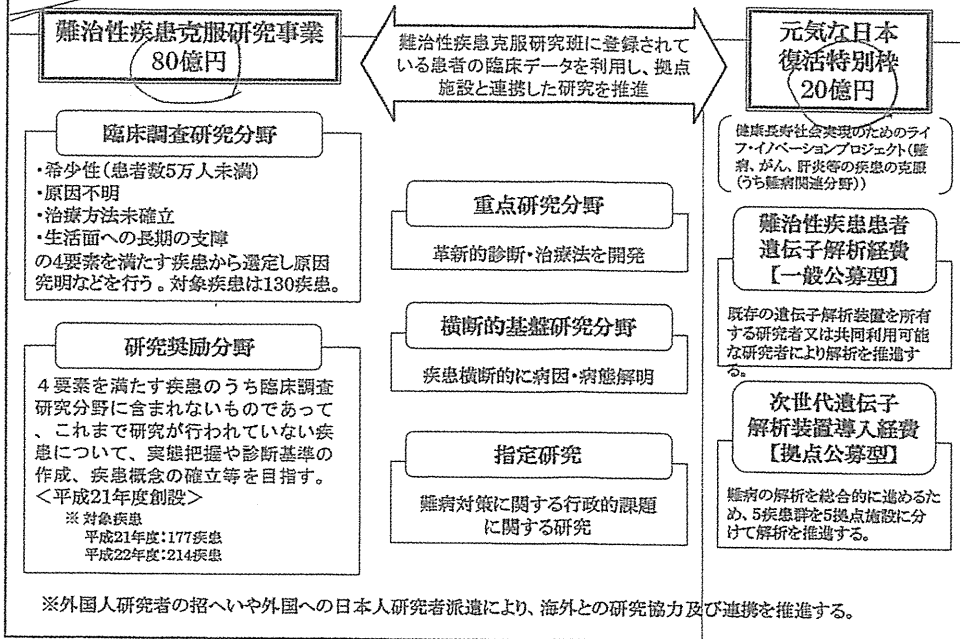
# 平成23年度難病対策関係予算の概要

- ① 難病に関する調査・研究の推進 100億円(100億円)
  - 難治性疾患克服研究事業 80億円
    - 根本的な治療法が確立しておらず、かつ後遺症を残すおそれが少なくない難治性疾患に対して、重点的・効率的に研究を行うことにより、病状の進行の阻止、機能回復・再生を目指した画期的な診断・治療法の開発を行い、患者の療養生活の質の向上を図る。
    - 健康長寿社会実現のためのライフイノベーションプロジェクト 20億円
      - 次世代遺伝子解析装置を用いて、難病患者の全遺伝子をきわめて短期間に解析し、早期に原因説明及び新たな治療法・開発を推進する。
- ② 特定疾患治療研究事業(医療費助成) 280億円(275億円)
  - 原因が不明であって、治療法が確立していない特定疾患に関する医療の確立、普及を図るとともに、患者の医療費の負担軽減を図る。
- ③ 難病相談・支援センター事業 166百万円(265百万円)
  - 難病患者のもつ様々なニーズに対応したきめ細かな相談支援が行えるよう、都道府県毎の活動拠点となる「難病相談・支援センター」を設置し、地域における難病患者支援対策を一層推進する。(全国47箇所に設置)
- ④ 重症難病患者入院施設確保事業 154百万円(179百万円)
  - 都道府県毎に難病医療連絡協議会、難病医療拠点病院・協力病院を設置し、入院治療が必要となった重症難病患者に対する適切な入院施設の確保等を行う事業に加え、新たに、在宅療養中の重症難病患者のレスパイト入院のための病床を確保するための事業を行うことにより、難病医療体制の整備を図る。
- ⑤ 難病患者等居宅生活支援事業 207百万円(207百万円)
  - 地域における難病患者等の日常生活を支援することにより、難病患者等の自立と社会参加を促進する。

※( )内は平成22年度予算額

## 難病に関する研究の概要

平成23年度予算 100億円





## 評価の考え方

- 厚生労働省の役割とは何か？
  - 研究事業は経済産業省、文部科学省でも行われている。
  - 臨床現場と密接かつ臨床応用に向けた研究が必須
- 事後評価の結果が、次年度採択の評価対象となる。
  - よって、いかに実績を残せるか＝臨床現場に生かす研究
  - 公募課題の目的を達せられていることが前提
- 事前評価としては、次年度以降の研究計画の内容を評価する。
  - 研究目的を明確化し、臨床現場への応用に至る行程を含めて、具体的な研究計画
    - ・ 今後の治療法の開発研究はその行程を明示することが必須
    - ・ 実現可能性が非常に重要な評価ポイントになる
  - 研究競争力の強化こそが事業全体の継続力の強化となる！

## 難治性疾患克服研究事業の目指すべき方向

- 臨床現場への応用
  - ・ 新薬、新技術の開発
  - ・ 先進、高度医療、保険適用への道
- 知的財産の活用
  - ・ 新技術の知的財産の確保
- 患者、世界に向けた知見の発信
  - ・ 積極的に研究成果を公表
  - ・ 患者会との連携
  - ・ 患者の視点に立った情報公開

# 難病情報センター

Japan Intractable Diseases Information Center



サイトマップ



English

Q サイト内検索

検索

## 難病情報センターについて

難病情報センターは、厚生労働省からの補助を受けて公益財団法人難病医学研究財団が実施する事業であり、いわゆる難病と呼ばれている疾患の中から厚生労働省が難治性疾患克服研究事業(臨床調査研究分野)の対象としている疾患を中心に情報提供をしています。

特に患者さんやそのご家族の皆様には療養上の悩みや不安を軽減するため、また、難病治療に携わる医療関係者の皆様には診療上必要な参考情報として、下記の内容についてウェブサイト上で情報提供をしています。

- (1) 国の難病対策
- (2) 病気の解説(一般向け、医療従事者向け)  
—難治性疾患克服研究事業対象(130疾患)—
- (3) 難病関連制度
- (4) 厚生労働省難治性疾患研究班  
(臨床調査研究分野、研究奨励分野など)
- (5) 相談窓口
- (6) 患者会など

なお、当センターは、医療機関ではないため、個人個人の症状や診断・治療内容に関するお問い合わせにつきましてはお答えできません。その場合は、かかりつけ医とよくご相談下さい。

難病医学研究財団のその他の事業並びに賛助会員及び寄附などに関することはこちらをクリックしてください。

▶ [公益財団法人難病医学研究財団webサイトへ](#)

## 難病関連情報

### 過去の難病関連情報

- H23年7月1日 公益財団法人難病研究財団 医学研究奨励助成金(【新】臨床分野特別枠)の公募が始まりました。
- H23年6月24日 神経変性疾患に関する調査研究班 平成23年度ワークショップのご案内  
開催日:平成23年7月15日(金)  
会場:都市センターホテル(東京都千代田区)  
厚生労働省難治性疾患克服研究事業 神経変性疾患に関する調査研究班が担当する難病に関する専門的な研究会です。  
プログラム、問合せ先は研究班のホームページをご覧ください。
- H23年6月15日 医学研究奨励助成金、国際シンポジウム開催事業の公募が始まりました。  
(公益財団法人難病研究財団)

## サイト更新履歴

### 過去のサイト更新履歴

- H23年6月30日 ・以下の疾患の診断・治療指針(医療従事者向け)を更新しました。  
[メニエール病](#)

・以下の疾患の病気の解説(一般向け)、診断・治療指針(医療従事者向け)を更新



## 国の難病対策

- 難病対策の概要
- 難治性疾患克服研究事業の概要
- 特定疾患治療研究事業の概要
- 難病特別対策推進事業
- 難病患者等居宅生活支援事業
- 在宅人工呼吸器使用特定疾患患者訪問看護治療研究事業
- 厚生労働省の難病対策に関する関係通知
- 特定疾患医療受給者証交付件数年次推移(都道府県別)



## 病気の解説(130疾患)

- 一般利用者向け  
(50音順・疾患群別索引)
- 治療・診断指針(医療従事者向け)  
(50音順・疾患群別索引)



## 各種制度・サービス概要

- 相談窓口情報
- 難病支援関連制度検索
  - 一瞥から探す
  - 年齢・病気などから探す

▶ [制度の利用案内アニメ](#)

- 就労支援関連情報
- 福祉機器関連情報
- その他

▶ [ドキュメンタリー 今を生きる](#)

難病相談・支援センター向け情報

## 門脈血行異常症に関する定点モニタリングシステムの構築

### 1. 目的と概要

定点医療機関における門脈血行異常症の新患を継続的に登録するシステムを構築する。このシステムにより、疾患の臨床像や治療法などについて経年的な変化をいち早くとらえることが可能となる。具体的には、研究班の班員所属施設を定点医療機関として、当該施設で初めて門脈血行異常症の診断を受けた全ての患者、および手術症例、死亡例について、患者の臨床像などに関する調査票を提出することにより登録を実施する。本登録データは研究班全体で共有する。また既存の他プロジェクトとも有機的連携を図ることが有効である。例えば、同意が得られた患者については、検体保存センターへの検体提出も同時に実施するようなシステムとする。

### 2. 方法

対象者

- ① 研究班の班員所属施設において、初めて門脈血行異常症と診断された患者（新患）
  - ② 研究班の班員所属施設において、門脈血行異常症に関する手術治療を受けた患者（手術例）
  - ③ 研究班の班員所属施設において、死亡した門脈血行異常症患者（死亡例）
- \*なお、初年度は、過去3年間の該当患者を抽出し、登録することとする。

情報収集

随時、調査票（別添：新患用、手術例用、死亡例用）を提出することにより、登録を行う。

解析

登録患者の臨床像について、経年的な変化をまとめる。

なお、本登録データは研究班全体で共有し、既存の他プロジェクトとも連携できるようなシステムとする。

### 3. 倫理審査

本調査の実施について、定点モニタリングシステム事務局（大阪市立大学）にて倫理審査委員会の承認を得る。また、各医療機関においても、必要に応じて倫理審査委員会の承認を得る。

### 4. Authorship

発表の際には、本研究に参加するすべての研究者の Authorship を確保する。

# 門脈血行異常症 定点モニタリング(新患用)

--	--	--	--	--	--

施設名： \_\_\_\_\_

記入者氏名： \_\_\_\_\_

記入年月日： 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

診断名	1. 特発性門脈圧亢進症    2. 肝外門脈閉塞症    3. バッド・キアリ症候群    (肝生検の有無: 1. なし 2. あり)				
IDもしくはカルテ番号			性別	1. 男    2. 女	
生年月	(1.明 2.大 3.昭 4.平)    年    月		推定発症年月	(1.昭 2.平)    年    月    不明	
診断した医療機関	1. 貴施設    2. 他施設    3. 不明		確定診断年月	(1.昭 2.平)    年    月    不明	
身長	cm	体重	kg	家族内同病者    1. なし    2. あり(続柄: _____)	
喫煙	1. なし    2. あり(量: _____ 本/日、年間)		飲酒	1. なし    2. あり(量: _____、年数: _____ 年)	
輸血歴	1. なし    2. あり( _____ 歳時)		手術歴	1. なし    2. あり(病名: _____、 _____ 歳時)	
既往歴、または併存疾患 (有する項目に○)	1. 新生児臍炎    2. 胆嚢胆管炎    3. 膵炎    4. 静脈血栓症    5. うっ血性心不全 6. 悪性腫瘍(部位: _____)    7. 膠原病(病名: _____)    8. 血液疾患(病名: _____) 9. 糖尿病    10. 高血圧症    11. 高脂血症				
確定診断時の所見	症状 (有する項目に○)	1. 吐血    2. 腹水    3. 浮腫    4. 下肢静脈瘤    5. 胸腹壁の上行性皮下静脈怒張 6. 意識障害    7. 黄疸    8. 肝機能異常    9. 全身倦怠感    10. 脾腫 11. その他( _____ )			
	検査所見	1. 白血球数( _____ /μl)    2. ヘモグロビン( _____ g/dl)    3. 血小板( _____ /μl) 4. T-Bilirubin( _____ mg/dL)    5. AST ( _____ IU/L)    6. ALT( _____ IU/L) 7. Albumin ( _____ g/dL)    8. PT ( _____ %), INR ( _____ )			
	上部内視鏡所見	1. 食道静脈瘤: ( なし・あり ) → F:[ 0・1・2・3 ] RC:[ 0・1・2・3 ] 2. 胃静脈瘤 : ( なし・あり ) → Lg:[ Lg-c・Lg-f・Lg-cf ] F:[ 0・1・2・3 ] RC:[ 0・1・2・3 ] 3. 異所性静脈瘤: ( なし・あり ) → 部位:[ _____ ] F:[ 0・1・2・3 ] RC:[ 0・1・2・3 ]			
	肝性脳症	1. なし    2. 軽度    3. ときどき昏睡	腹水	1. なし    2. コントロール可    3. コントロール不能	
	画像所見	1. 肝萎縮( なし・あり )    2. 肝腫大( なし・あり )    3. 肝腫瘍( なし・あり )    4. 脾腫( なし・あり ) 5. 肝内門脈血栓( なし・あり )    6. 肝外門脈血栓( なし・あり )    7. 肝内門脈( 正常・狭窄・閉塞 ) 8. 肝外門脈( 正常・狭窄・閉塞 )    9. 下大静脈( 正常・狭窄・閉塞 )    10. 右肝静脈( 正常・狭窄・閉塞 ) 11. 中肝静脈( 正常・狭窄・閉塞 )    12. 左肝静脈( 正常・狭窄・閉塞 )			
重症度*	I    II    III    IV    V				

\*参考

因子/重症度	I (診断可能だが、所見なし)	II (所見を認めるが治療を要しない)	III (所見を認め、治療を要する)	IV (身体活動が制限され、介護要)	V (肝不全・消化管出血を認め、集中治療を要する)
食道・胃・異所性静脈瘤	-	+	++	+++	
門脈圧亢進所見	-	+	++		
身体活動制限	-	-	+	++ (日中の50%以上就床)	
消化管出血	-	-	-	-	+
肝不全	-	-	-	-	+

(送付先) 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3 大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 廣田良夫  
TEL : 06-6645-3756

# 門脈血行異常症 定点モニタリング(手術例用)

--	--	--	--	--	--

施設名： \_\_\_\_\_

記入者氏名： \_\_\_\_\_

記入年月日： 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

診断名	1. 特発性門脈圧亢進症    2. 肝外門脈閉塞症    3. バッド・キアリ症候群				
IDもしくはカルテ番号			性別	1. 男    2. 女	
生年月	(1.明 2.大 3.昭 4.平)    年    月		確定診断年月	(1.昭 2.平)    年    月    不明	
手術前の重症度*	I	II	III	IV	V
今回の術式	<p>1. 閉塞・狭窄に対する治療</p> <p style="margin-left: 20px;">①バルーンカテーテルによる開通術・拡張術</p> <p style="margin-left: 20px;">②ステント留置</p> <p style="margin-left: 20px;">③用指膜破砕術</p> <p style="margin-left: 20px;">④閉塞部穿孔術</p> <p style="margin-left: 20px;">⑤閉塞・狭窄部上下の大静脈シャント手術</p> <p style="margin-left: 20px;">⑥その他(術式: _____ )</p> <p>2. 食道・胃静脈瘤・異所性静脈瘤に対する治療</p> <p style="margin-left: 20px;">(治療部位: 食道・胃・異所性(部位: _____ ))</p> <p style="margin-left: 20px;">①内視鏡的硬化療法</p> <p style="margin-left: 20px;">②内視鏡的結紮術</p> <p style="margin-left: 20px;">③BRTO</p> <p style="margin-left: 20px;">④Hassab手術</p> <p style="margin-left: 20px;">⑤血行遮断術</p> <p style="margin-left: 20px;">⑥その他(術式: _____ )</p> <p>3. 脾腫に対する治療</p> <p style="margin-left: 20px;">①脾臓摘出術</p> <p style="margin-left: 20px;">②選択的脾動脈塞栓術</p> <p style="margin-left: 20px;">③その他(術式: _____ )</p> <p>4. 肝移植</p>				
術後の経過	1. 軽快    2. 不変    3. 悪化    4. 死亡				

\*参考

因子/重症度	I (診断可能だが、 所見なし)	II (所見を認めるが治療を 要しない)	III (所見を認め、 治療を要する)	IV (身体活動が制 限され、介護要)	V (肝不全・消化管出血を認 め、集中治療を要する)
食道・胃・異所性静脈瘤	-	+	++	+++	
門脈圧亢進所見	-	+	++		
身体活動制限	-	-	+	++ (日中の50%以上就床)	
消化管出血	-	-	-	-	+
肝不全	-	-	-	-	+

(送付先) 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3 大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 廣田良夫  
TEL : 06-6645-3756

# 門脈血行異常症 定点モニタリング(死亡例用)

--	--	--	--	--	--

施設名： \_\_\_\_\_

記入者氏名： \_\_\_\_\_

記入年月日： 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

診断名	1. 特発性門脈圧亢進症    2. 肝外門脈閉塞症    3. バッド・キアリ症候群		
ID もしくは カルテ番号		性別	1. 男    2. 女
生年月	( 1.明 2.大 3.昭 4.平 )    年    月	確定診断年月	( 1.昭 2.平 )    年    月    ・ 不明
死亡日	平成    年    月    日	死因 (有する項目に○)	1. 静脈瘤破裂 2. 肝がん 3. 肝不全 4. その他の疾患(病名: _____ )

(送付先) 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1-4-3 大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 廣田良夫  
TEL : 06-6645-3756

平成23年度第1回班会議  
門脈血行異常症に関する調査研究

## 検体保存センターの登録および データ解析について

九州大学大学院 先端医療医学講座

橋爪 誠

### はじめに

- 平成18年3月、厚生労働省の倫理指針に沿った新しい検体保存センターが、九州大学大学院医学研究院倫理委員会およびヒトゲノム・遺伝子解析倫理審査専門委員会により承認された。
- ひきつづき各施設倫理委員会承認のもとで新たな検体登録を開始した。
- 現時点での検体保存センターの登録状況を報告する。
- 検体保存センターの運営、登録に関する事項につき解説する。

## 全国検体登録制度および検体保存センター(旧)

### 1) 平成9年 全国検体登録制度 及び検体保存センター設置 研究協力施設 258施設

### 2) 平成17年年度末までの登録症例数

IPH	98例	
EHO	51例	
BCS	39例	計188例

## 旧検体保存センターの成果

### 【平成 9年度報告】

黒川 哲夫 IPH症例における免疫学的検討

### 【平成10年度報告】

黒川 哲夫 特発性門脈圧亢進症の遺伝子発現異常からみた病因の解明

### 【平成11年度報告】

塩見 進 特発性門脈圧亢進症の遺伝子異常に関する研究

兼松 隆之 肝外門脈閉塞症の遺伝子異常に関する研究

### 【平成12年度報告】

末松 誠 肝硬変およびIPHにおけるHO-1の発現異常とその意義

### 【平成13年度報告】

橋爪 誠 Budd-Chiari症候群における病因に関する検討

### 【平成14年度報告】

塩見 進 プロテインチップによるIPH特異的タンパクの解析

### 【平成15年度報告】

塩見 進 IPHおよびPBC特異的タンパクの解析

- Suematsu, et, al. Altered expression of heme oxygenase-1 in the livers of patients with portal hypertensive diseases. ( Hepatology 2001 )
- Shiomi S, et al. Expression of connective tissue growth factor in patients with idiopathic portal hypertension. ( Cells Hepatic Sinusoid 2001 )



## 旧検体保存センターの問題点(1)

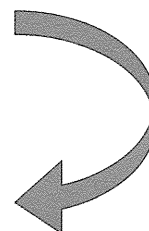
- ◎ 平成13年の「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針(文科省・厚労省・経産省)」に定められた手続きの遵守を求められるようになった。
- ◎ 平成14年九州大学および大阪市立大学の倫理委員会に承認された。
- ◎ 承認の手続きがより煩雑となり、666施設にのぼる協力依頼施設すべての倫理委員会の承認を得た上での効率的な研究推進が事実上困難となった。

## 検体保存センターの再編 —新検体保存センター—

- ◎ 倫理指針に沿った無理のないシステム
  1. 倫理審査委員会が設置されている
  2. 匿名化のシステムが確立されている
  3. 同意書取得ができる

検体提供を分担研究者施設に限定

- ◎ 有効なデータ創出のための有機的つながりを持ったシステム
  1. 対照群の設定(肝硬変、非肝硬変肝疾患、健常人)
  2. 臨床データの付記(個人調査票も検体とともに提出する)
  3. データの共有(基本的なデータは最初の時点で測定し、検体とともに検体保存センターに保存する)



## 研究計画

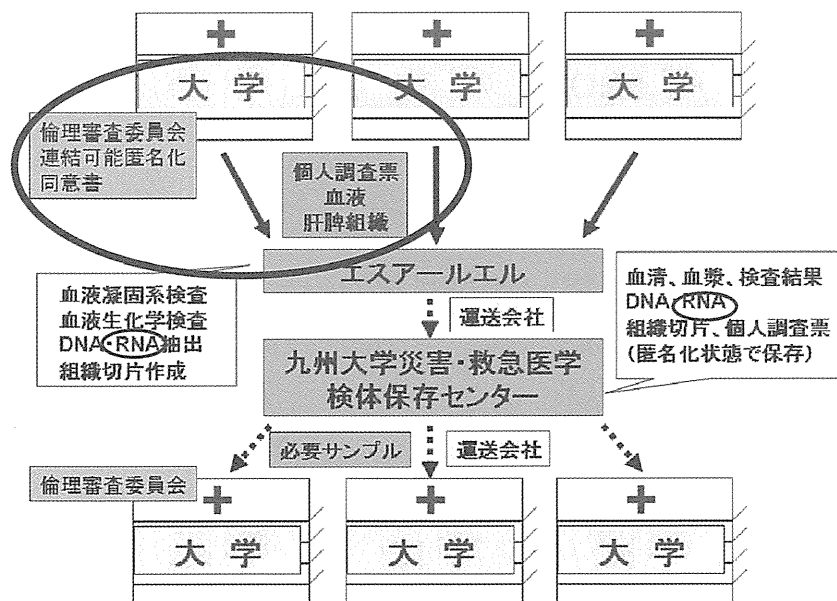
調査対象: IPH, EHO, BCS

対 照 群: 肝硬変、非硬変性疾患(転移性肝癌、胃癌、  
脾嚢胞など)、 健常人

採取される試料の種類、量:

1. 血液(30ml以下) IPH、EHO、BCS、肝硬変、健常人
2. 肝組織(ホルマリン・凍結: 肝切除症例、3g以下)  
IPH、EHO、BCS、肝硬変、非硬変性疾患(転移性肝癌)
3. 脾組織(ホルマリン・凍結: 脾摘症例、3g以下)  
IPH、EHO、BCS、肝硬変、非硬変性疾患(胃癌、脾嚢胞)

## 検体保存センターのチャート図



## 検体保存センター登録状況(1)

### 倫理委員会承認済み施設(6施設)

- 九州大学大学院 災害救急医学、消化器・総合外科
- 長崎大学大学院 移植消化器外科
- 大阪市立大学大学院 核医学、公衆衛生学
- 大分大学 第一外科
- 琉球大学 機能制御外科
- 昭和大学消化器内科

## 検体保存センター登録状況(3)

### 1) 平成17年年度末までの登録症例数

IPH	98例
EHO	51例
BCS	39例
	計188例

### 2) 平成18年から平成23年11月までの登録症例数

IPH	7例
EHO	1例
BCS	23例
LC	6例
NPH	1例
	計38例

## 検体保存センター登録状況(2)

(2006年4月 ~ 2011年6月)

琉球大学医学部機能制御外科	13 症例
長崎大学大学院 移植・消化器外科	8 症例
九州大学大学院 消化器・総合外科	9 症例
大阪市立大学大学院	5 症例
昭和大学消化器内科	1 症例
久留米大学医学部 外科	2 症例
合 計	38症例

昨年度班会議時点より5例増加  
(うちBCS 2例、IPHが3例)

全症例(2006-2010, n=50)

